

県域 絶滅危惧Ⅱ類



以前は漁が出来るほど採れたそうだが、一度は激減してしまった。やや復活の兆しが・・・

キュウリウオ科 ワカサギ属 【全長】15cm

ワカサギ

学名: *Hypomesus nipponensis*

分布域

島根県と利根川を南限とする本州と北海道に分布する。

生息域

海の沿岸部や河口・汽水湖などに生息する。



冬の風物。復活を期待したい。北潟湖産

体形は細長い。口は大きく、目の直下位までである。腹鰭は背鰭の起点よりやや前方に位置する。体色は透明感のある銀白色で背面側が緑色を帯びた褐色。死ぬと体色は透明感がなくなる。海の沿岸部～汽水域に生息し、浮遊動物(動物プランクトン)を食べる。産卵期は春。河川に遡上し岸近くのヨシや水草に粘着卵を産卵する。産卵後に多くは死ぬ、年魚。寒冷地では2～3年生存するものも知られる。水温や塩分濃度に対する抵抗力は強い。純淡水域(ダム湖など)に移殖しても定着する。本県での生息地・生息数とも、一度は激減し極めて少なくなった。

水槽での飼育は可能だが、擦れに弱く、餌は活きたアミ類を食べる。

在来種

回遊魚

※ ワカサギが激減した理由は、産卵場所となる河川(真水域)のヨシが護岸工事で、無くなってしまったことが大きな要因だと思われる。復活が望まれる種で、近年その兆しがやや視られる。